

本時のねらい

・相手のことを思いやり、進んで親切にしようとする心情を育てる。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

・思考ツール（クラゲチャート）を活用し、六べえじいとちよの気持ちの変化について整理することで、どんな心情から生まれた行動なのかとらえられるようにする。また、2人がどんなことに気づき、どんな関係が生まれたのかについても視覚的に理解を促すことができる。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

・電子黒板機能付プロジェクター ・スクリーン ・Sky Menuの発表ノート（思考ツール【クラゲチャート】）

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ○親切にしてもらってうれしかったことがあるか、話し合う。 ○「六べえじいとちよ」を範読する。 ○登場人物、中心人物を確認する。 ・六べえじい、ちよはそれぞれどんな人なのかを考える。 ・ちよの行動について、整理する。 	
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> ○六べえじい、ちよの気持ちの変化をクラゲチャートに書いていく。 ・ちよが毎日通い続ける理由について、考える。 ○記入したクラゲチャートを発表する。 ・六べえじいの心を変えたのは何かについて、考える。 ・六べえじいのその後の変化についてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラゲチャートを活用することで思考の過程を視覚化することができる。 ・完成したクラゲチャートをスクリーンで共有しながら、発表することができる。 ・2人の心のつながりについて、スクリーンに直接タッチペンで記入することで、その場で共有することができる。
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○ふりかえりカードを書く。 ・ちよみたいな行動がとれる人になるには、どうするといいいのか、困っている友だちに対して何ができるかなど、より生活場面に近い形で書くようにする。 	

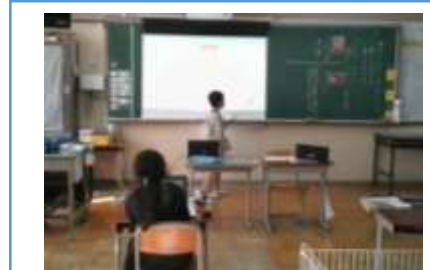
1人1台端末を活用した活動の様子



クラゲチャートに、考えをまとめている場面①



クラゲチャートに考えをまとめている場面②



自分の考えを共有している場面

児童生徒の反応や変容

自分の考えを表現することが苦手な児童もクラゲチャートの活用によって、自分の考えを表現することができた。足の部分にそれぞれの場面の気持ちの変容を記入することにより、場面ごとに順を追いながら、登場人物の気持ちの変化を気付くことができた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

クラゲチャートを活用することで、児童一人ひとりの思考過程が視覚化されるため、教員の発問に対しても、クラゲチャートを見返しながら、主体的で対話的な授業展開を行うことができた。配慮を要する児童が主体的に活動するツールともなり、積極的に道徳の授業に参加することができた。